

タンク建設進捗状況

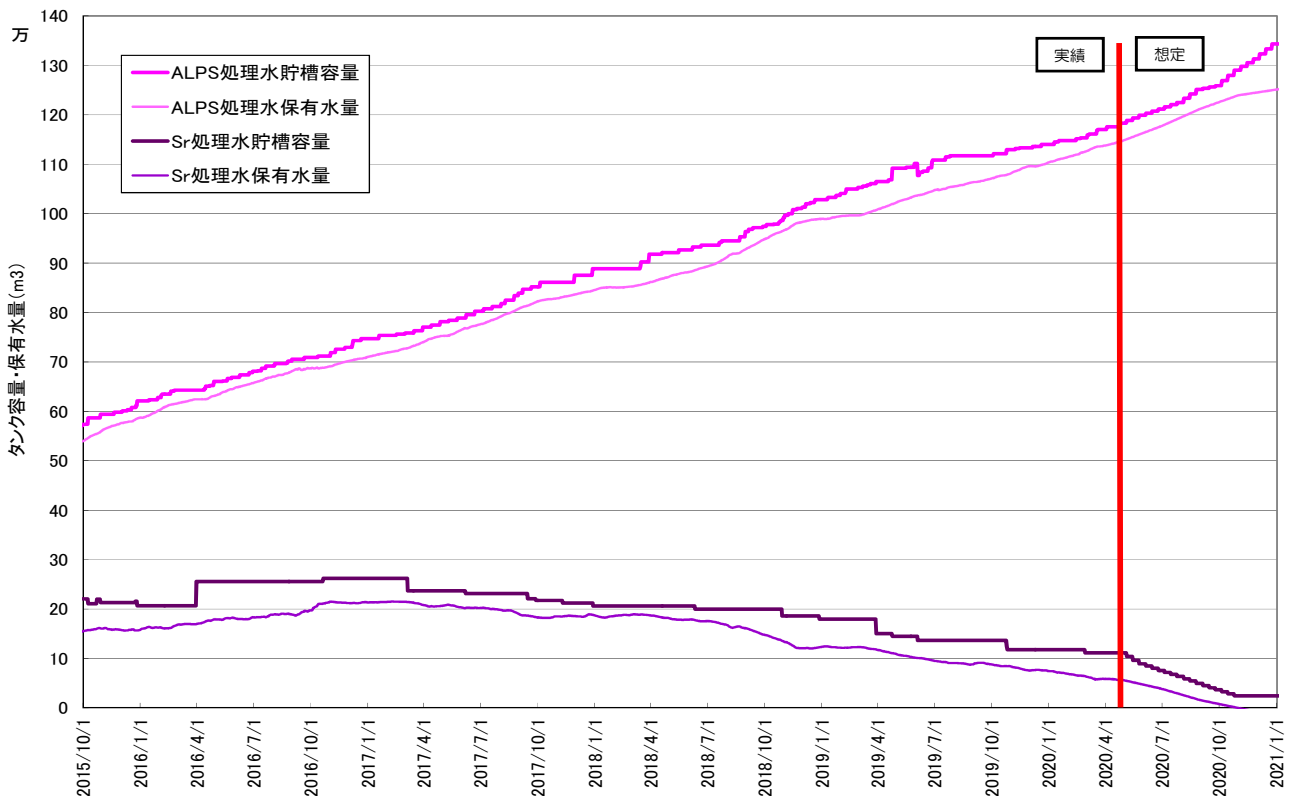
2020年4月30日



東京電力ホールディングス株式会社

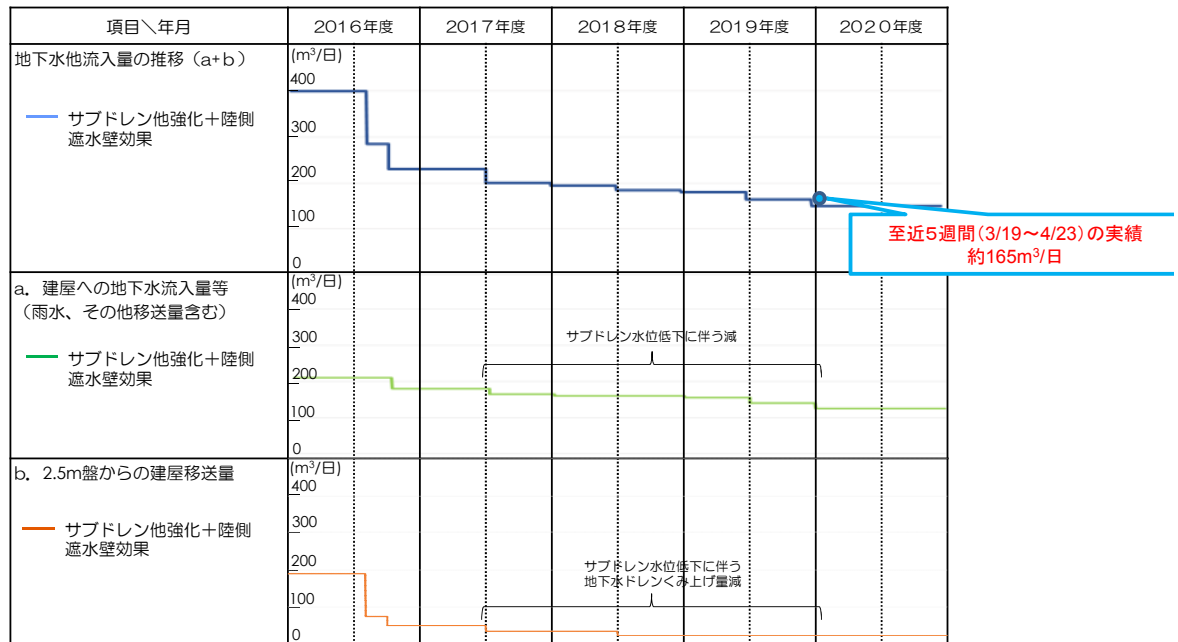
1-1. タンク容量と貯留水量の実績と想定

水バランスシミュレーション（サブドレン他強化+陸側遮水壁の効果）



水バランスシミュレーションの前提条件

➤ サブドレン+陸側遮水壁の効果を見込んだケース



2-1. 溶接タンク建設状況

タンクリプレースによる溶接タンク建設容量の計画と実績は以下の通り（～2021年3月）

溶接タンクの月別建設計画と実績

下線は計画

単位：千m³

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
2019	26.9	10.0	31.0	9.1	0	0	11.9	4.0	6.6	7.9	5.3	10.6	123.3
2020	13.2	<u>9.3</u>	<u>6.6</u>	<u>4.0</u>	<u>7.9</u>	<u>7.9</u>	<u>11.9</u>	<u>15.9</u>	<u>5.3</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>82.0</u>

タンク容量の確保計画と実績（全体※1）

	計画 (2020.12.31時点)	実績※2 (2020.4.23時点)	タンク容量確保目標 約690m ³ /日(約310m ³ /日※3) (2020/4/23～2020/12/31) [建設・再利用合計]
タンク総容量	約1,368千m ³	約1,194千m ³ (約1,291千m ³ ※3)	

※1：水位計0%以下の容量（約2千m³）及び日々の水処理に必要なSr処理水用タンク（約24.7千m³（既設置））を含む

※2：「福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について（第449報）」にて計算

※3：Sr処理水用タンクからALPS処理水用タンクとして再利用する分（約97千m³（既設置））を含む

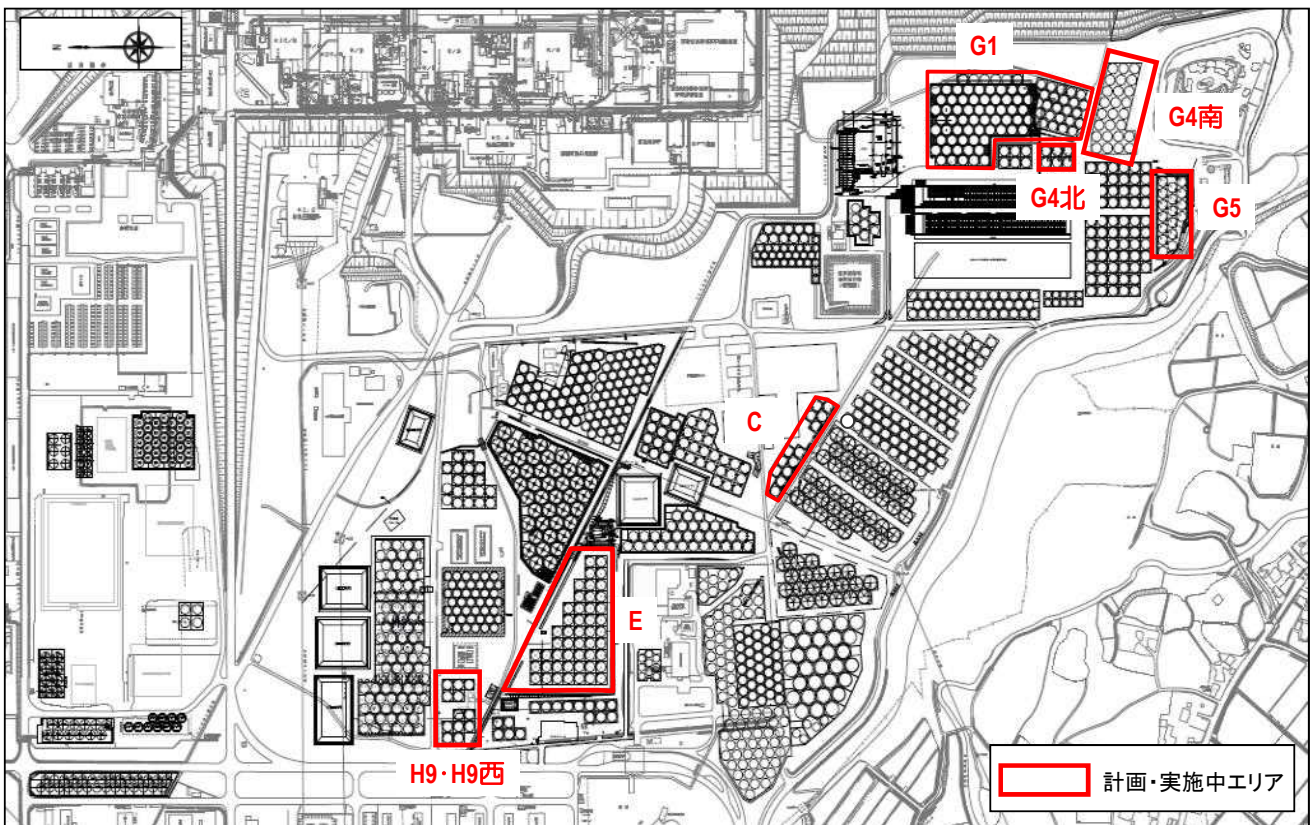
1. タンク建設・解体関係

エリア	全体状況
C・E	フランジタンクの解体作業中。
G1	2019/2/27 鋼製横置きタンク撤去完了。 2019/4/1 溶接タンク設置開始。 2020/2/3 基礎構築完了 タンク設置実施中。
G4南	2018/9/13 フランジタンクの解体作業着手。 2019/3/21 フランジタンク解体・撤去完了。 2019/12/1 溶接タンク設置開始 2020/3/4 基礎構築完了 タンク設置実施中。
G4北・G5	フランジタンクの解体作業準備中。

2. 実施計画申請関係

エリア	申請状況
H9・H9西	タンク解体分 2020/4/16 実施計画変更申請

【参考】タンクエリア図



【前回までの経緯】

- 現在スラッジの堆積を確認しているタンク（G3東エリア）は、全て2013年度に既設ALPSにて処理された処理水を貯留しているタンクであるため、今後は、貯留時期（年度）や処理設備（既設ALPS・増設ALPS・高性能ALPS）を踏まえ調査エリアを広げ調査を進めていく。（2020/3/26 廃炉・汚染水対策チーム会合事務局会議）

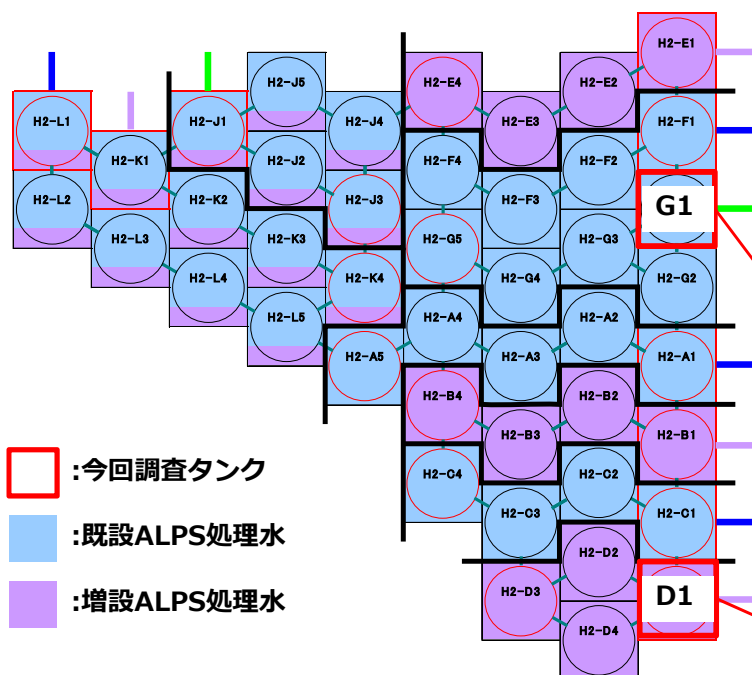
【調査のエリア】

- 現在スラッジの堆積を確認しているタンク（G3東エリア）とは異なる条件のH2エリアの2基のタンクについて、水中ROVによる内面点検を実施した。
 - H2-D1（2017年度に既設ALPSにて処理された処理水を貯留）
 - H2-G1（2017年度に増設ALPSにて処理された処理水を貯留）

【調査の結果】

- 上記2基のタンクを調査したところ、スラッジの堆積は確認されなかった。
- 今後も調査範囲を広げ、スラッジ発生原因の調査を進めていく。

ALPS処理水タンク内のスラッジ堆積調査（写真）



タンク配置図（H2エリア 全44基）



【参考】別エリアタンク内面写真（水抜き後）



H2-G1タンク内面写真（底板）



H2-D1タンク内面写真（底板）